

A 募集の趣旨・目的及び背景、案の概要・論点等

1. 案を作成した趣旨、目的及び背景

鳴門市では、平成27年度より第一期鳴門市総合戦略となる「なると未来づくり総合戦略」を策定し、その後、令和2年度に第二期鳴門市総合戦略「なると未来づくり総合戦略2020」へ引き継ぐ中で、人口減少対策や魅力ある地域づくりに取り組んできました。このたび、引き続き人口減少対策に取り組むとともに、一定程度の人口減少を受け入れた上で人口減少に適応した地域づくりを進めるために、第三期鳴門市総合戦略「なると未来づくり総合戦略2025」の策定を進めております。

つきましては、素案段階での計画を公表し、市民の皆さんのご意見を募集します。提出いただいたご意見を参考に令和7年3月までに「なると未来づくり総合戦略2025」をまとめる予定です。

2. 案の概要

第1章では、鳴門市人口ビジョン2025、若手職員意見交換会、市民アンケート、全国調査などの分析や、第二期鳴門市総合戦略の効果検証により本市が抱える課題を大きく5点抽出し、若者の回帰志向を高めることや人口減少を前提とした魅力あるまちづくりを進めることなどが挙げられました。次に、第2章では、第1章で抽出した課題をもとに、基本方針（①鳴門市の強み（良いところ）を活かす、②未来の鳴門市を担う人材育成、③若い世代の定住促進、④感染症による意識・行動変容を踏まえた、ひと・しごとの流れの創出、⑤人口減少に適応する地域づくり、⑥DX化の推進）を定め、2040年の鳴門市の目標人口を41,000人～42,000人に設定し、今後の取り組みの方向性を示しています。最後に、第3章では、第2章を受け、実際に取り組みを進めていくための基本目標（①「鳴門」らしさを活かし、人の流れをつくる、②「鳴門」に仕事をつくる、③「鳴門」で結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える、④魅力的な「鳴門」をつくる）を掲げ、それらを達成するための具体的な施策を掲載しております。

3. 案を作成する際に整理した論点及び鳴門市の考え方

鳴門市の人口は、平成7年の64,923人をピークに減少を続けており、令和2年には、54,622人まで減少しています。人口減少の要因の一つは自然動態であり、平成30年から令和4年までの合計特殊出生率の5年間平均値は、徳島県全体の1.46に対して、本市は1.22となっており、県内でも低水準となっています。また、社会動態については、近年、転出数自体は緩和傾向となっていますが、近隣市町等への10代後半から30代にかけての若者の転出超過の傾向は依然として続いています。

人口減少はまちづくりに大きな影響を及ぼすため、出生数維持や若者の転出超過の改善などに取り組み、人口減少のスピードを可能な限り緩やかにしていく必要があります。しかしながら、その一方で、人口減少は、日本全体の問題でもあるため、地域レベルの取り組みだけで、今後大幅な人口増加に転じることは想定しにくく、一定程度の人口減少は避けられないと認識しています。

そこで、「構造的に避けられない人口減少スピードの緩和に努める」こと、中長期的には「人口減少に適応した持続的なまちづくりを進める」ことの両輪で取り組みを進め、住みたい、住み続けたい、戻ってきたいと思っただけの「鳴門市」を目指します。